

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 10 回 松阪市総合計画等評価委員会
2. 開 催 日 時	令和 8 年 8 月 8 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 37 分
3. 開 催 場 所	松阪市産業振興センター 3 階研修ホール
4. 出席者氏名	出席委員：岩崎委員、小野崎委員、志田委員、塚本委員、林委員、平岡委員、藤田委員、別府委員、村林委員 事 務 局：中井企画振興部長、林企画振興部経営企画課長、 小山企画振興部経営企画課課長補佐、上村企画振興部経営企画課政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 要旨は別紙のとおり

第 10 回 松阪市総合計画等評価委員会 会議録

1. 日 時 令和 8 年 8 月 8 日（土） 午後 1 時 30 分～4 時 37 分
2. 場 所 松阪市産業振興センター 3 階研修ホール
3. 出席者 岩崎委員、小野崎委員、志田委員、塚本委員、林委員、平岡委員、藤田委員、別府委員、村林委員

〔傍聴〕

竹上市長、近田副市長、永作副市長、中田教育長、若山教育委員会事務局長、中西危機管理特命理事、池田総務部長、岡田税務担当理事、中井企画振興部長、蒲原地域振興担当理事、下倉環境生活部長、福山清掃行政担当理事、大西健康福祉部長、池田保険健康担当理事、沼田病院事業局長、西浦こども局長、岡田産業文化部長、福島競輪事業担当理事、西口農林水産担当理事、松本建設部長、高橋消防団事務局長、小泉防災担当参事、塩野上下水道事業管理者、武田会計管理者、三木議会事務局長

〔事務局〕

林経営企画課長、小山課長補佐、上村政策経営係長

4. 主な資料

- ・ 総合計画(R6-R9)
 - ・ 実施計画(R8-R9)
 - ・ 部局長の実行宣言(R8)
 - ・ 施策評価システム(R8)
 - ・ 総合戦略評価結果(R7)
 - ・ 数値目標一覧(R7)
 - ・ 市民意識調査(R7)
 - ・ 事項書
- ※資料はタブレット（サイドブックス）にも格納。

〔事項〕

- 1 市長あいさつ
- 2 協議事項
 - ① R8 部局長の実行宣言
 - ② 総合計画・地方創生総合戦略の令和 7 年度評価について
- 3 その他

【会議録】

1 市長あいさつ

2 協議事項

① R8 部局長の実行宣言

各部局長より実行宣言

② 総合計画・地方創生総合戦略の令和7年度評価について

【政策1 輝くこどもたち】

1-① こども・子育て支援の推進

○保育士試験の受験料助成について、全国の大学・短大で保育士養成校が減っていく中、保育士の確保が今後どうなっていくのか議論されているところであり、保育士試験で保育者を確保していくため、こうした助成の仕組みはありがたい制度になっていくと思います。

1-③ 学校教育の充実

○非認知能力の育成を目指す「松阪型探究モデル」が開発され、授業が楽しいと思う児童や生徒が増えれば、小学生・中学生の Q-U の満足度などもアップするのではないかと思います。

【政策2 いつまでもいきいきと】

2-① 健康づくりの推進

○特定健診やがん検診の受診率が何年経っても改善しないことについて、生活習慣病ですでに病院にかかっている方、職場の健診や人間ドックなど別の仕組みで検診を受けている方もおり、そうした人を区別せず分母に含めて受診率を算出するのが適切なのかを考え、その上で目標を定めていく必要があるのではと思います。

○米国では大腸がんの検診受診率が非常に高く、保険制度の仕組みの違いによるものではないかと思いますが、そうしたことも研究し、地域での受診率の向上に結びつけていただければと思います。

○がん検診を受けられる年齢については、国が示しているのかもしれませんが、それをそのまま鵜呑みにするのではなく、地域の実情に沿った検診をもう少し考えてもらえれば、受診率も上がるのではないかと思います。

2-② 地域医療の推進

○済生会松阪総合病院が建て替えまでは数年かかるということを踏まえ、松阪市民病院が在宅

医療や救急の架け橋といった役割を果たしていくのはもう少し先になろうかと思いますが、済生会松阪総合病院と済生会松阪市民病院のあり方については、また今後も検討が必要であると考えます。

2-③ 地域福祉・生活支援の充実

○市内に 13 箇所の福祉まるごと相談室ができ、地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームとの連携体制ができあがっている一方で、まだそれらを認知していない住民もいるため、周知を進め、重層的支援ネットワークを一層浸透させていく必要があります。また、民生・児童委員の区割等も含め、各相談窓口等の区域再編についても、市民に分かりやすい形での検討が期待されます。

2-④ 高齢者福祉の推進

○松阪市認知症施策推進計画の策定が進められており、「新しい認知症観」などの概念を市民に十分に理解してもらいながら、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく必要があります。

【政策 3 活力ある産業】

3-③ 商工業の振興

○三重県は、トランプ関税や中東問題、熊本地震など、他地域や海外の影響を受けやすい産業構造になっています。DX や AX、GX といった新しい取組を進めていく上で、自治体などが地域の事業者を支援していくことが望まれます。

3-④ 企業誘致・連携の推進

○ウッドピア松阪北地区への企業誘致など、非常に成果が上がっています。最近では、企業も雇用が確保できるかどうかかわからないと進出しづらい部分があり、人口減少に伴う人手確保対策が重要なポイントとなってきています。

【政策 4 人も地域も頑張る力】

4-③ 文化の振興

○「松阪市の指定・登録等文化財案内」の刊行は、文化財行政の中で昨年度の一番大きな成果だと思いますが、実行宣言では触れられていません。いい仕事をしているので、きちんと評価してほしいと思います。

4-④ 市民活動・社会教育の推進

○コミュニティセンターの指定管理は、住民自治協議会が受けることを前提としたもので、住民自治の活性化などの面でメリットがある反面、公共性や公平性の面での問題点もあります。自分の地域できっちりできるという体制ができて初めて指定管理を受けていただく、そういう

形でゆっくり進められているのは良いことだと思います。指定管理への移行後も、市が施設の管理者として責任を持つ姿勢は必要です。

【政策 5 安全・安心な生活】

5-③ 防災・危機管理対策の充実

○災害時の医療救護所のあり方について、医師会と行政とで議論を進めていますが、実行宣言の目標に盛り込まれていません。避難所での健康管理や疾病予防、在宅療養者への支援体制については、防災対策課だけでなく健康づくり課や健康福祉総務課など複数課が連携した枠組みで取り組む必要があります。

【政策 6 快適な生活】

6-③ 地域公共交通の充実

○鈴の音バスの市街地循環線について、もともとは路線バスが元気な時に高齢者向けにいろいろな施設を回れるようにつくられたものでしたが、路線バスが廃線・減便された現在では、路線バスが担っていた、駅へ向かい 鉄道に乗り換えるための役割をも担っていないといけないのではないかと思います。1 周に時間がかかる現状のルートを見直し、効率的に動けるよう、路線の再編を含めて見直しを検討すべきだと思います。

6-④ 都市空間・住環境の整備

○中山間地だけでなく、市街地の松阪駅から離れたエリアでも空き家が増加していると聞き及んでいますが、公共交通の利便性は居住選択をする上で考慮される要因の一つであり、若い世代が市街地に暮らせるようにするためにも、公共交通の利便性を考えてほしいと思います。

【政策 7 市民に寄り添う市役所】

7-① 行政サービスの充実

○オンライン申請の申請可能件数が 240 件から 284 件へ拡大した、ということが書かれていますが、そのような窓口改善が進められている中で、市民が実際に利用した件数など、市民の側がどういう具合に市役所が利用しやすくなったかを測る補足の数値目標を挙げていただければと思います。

7-② 情報発信・プロモーションの充実

○情報発信についての数値目標は比較的充実しているものの、情報提供の結果、市民の市政への参画意識がどう進んだかということの評価する数値目標として、市民と市役所が協働したプロジェクトの数などを検討していただければと思います。

7-③ 健全な財政運営

○実質公債費比率などが非常に健全な状態にあるため、実質公債費比率を指標扱いして経年の変化を出してもらい、財政状況の分析結果をコメントすることで、市民へ向けて財政上の不安がないことを示していただけたらどうかと思います。

【実行宣言全般について】

○今回の実行宣言も、総合計画のそれぞれの施策をどう進めたのかを把握した上で説明をしていただきました。各部局長が総合計画を進めるという立場に立って実行宣言をつくれ、それを評価し、さらに次年度の実行宣言をするという形になってきたことを評価したいと思います。

○一方で、各部局長の説明は「総合計画の進捗」という形で行われたものの、実際の様式をみると、単に宣言した内容の評価だけ書いてあるように見える箇所があります。実行宣言は、総合計画を進める立場から行われるものであり、その評価も大元の進めようとしたことが進められたかどうかという視点で行われるべきです。そのため、様式の「令和〇年度評価」という項目名に「(総合計画の進捗)」と括弧書きを加えるなど、総合計画を進める取組としての評価であることを様式上でも明確にするよう改善をお願いします。

○ほとんどの部局長は施策ごとの数値目標を踏まえて説明されていましたが、実際の評価欄の記載内容自体には数値目標の状況が十分に反映されていないように見受けられます。様式に「総合計画の進捗」であることを明記することで、数値目標の状況を踏まえたコメントがなされることが期待できます。例えば、頑張っているにもかかわらず、アンケート調査で市民満足度が下がった結果「E 評価」となった場合でも、「実態としてはこのように進んだ」「数年後には改善される」といった部局長自身の言葉による補足説明や評価が行われるべきで、そのためにも、前年度の評価欄に「総合計画の進捗状況の評価」であることが分かるよう明示していただくようお願いします。

○総合計画の数値目標自体が施策の進捗を十分に表していない場合もあり、それはもう変更できないということですが、実行宣言においては、進捗を正しく評価するために必要な参考目標や参考資料などを必要に応じて追加していただきたいと思います。

《16:37 閉会》